

第10回日展

第5科（書） 特選授賞理由

題名 作者名
趙介詩 **池永碧濤**

授賞理由

王羲之、米芾を基本に、明末清初の王鐸に繋がる流れの中にこの作品の位置があると思う。行・草を巧みに駆使しながら、単体・連綿を上手く組み合わせ心地良い自然な流れが素晴らしい。今後の更なる発展が楽しみである。

彪如 **石川青邱**

授賞理由

殷、周時代の古代文字に現代の息吹を参酌した制作技術は見事である。それは線の太細であったり、白黒のせめぎ合い、更に広狭、潤渴、粗密が微妙に混入されており、特選に相応しい作品である。

五月 **大崎雨菽**

授賞理由

古典が無いといわれる調和体分野であるが、この作品は王鐸の書を基盤に、かなを上手に調和させている。大らかに雄然と書き進め、大河の流れを感じさせる作品であり残された白の美しさにより清爽な空気が漂う。

白楽天詩 **尾崎司邑**

授賞理由

羲之を基盤にしながらも、宋代の書を独自の視点から取り入れ、新しい書風の作品に仕上げている。小粒の文字ながらも潤渴や太細などの多様な変化を駆使し、紙面に墨気の充実した素晴らしい作品となっている。

もみぢ **河合鷹山**

授賞理由

縦に流れ横に展開する仮名本来の連綿を加えた美しさを生かしながらの横物作品です。全体の雰囲気の中に序・破・急を感じさせる時間経過をみせ、濃淡潤渴の変化、粗密や強弱の変化等様々な要素を含み、行間の響き合いの美しさを感じられる作品です。

題名 作者名
吉野川 **川上鳴石**

授賞理由

たっぷりとした墨で大胆な動きの中にも絶妙な行の組み立てをし、曲線と直線の組み合わせの巧みさや、切断と連綿等の表現を加えた艶やかな作品は大字仮名の魅力を十分に感じさせてくれる作品である。

李白詩 **時崎伍鳳**

授賞理由

多字数の行書を明清時代の古典をベースにした作品。力強い線質で字形をやや右上りにし、要所に大小・潤渴を交え、流動感も表現されている。そして行間の余白も効果的で、しっかり書きあげた秀作である。

春の夕暮れ **豊原睦子**

授賞理由

『関戸本古今集』等の古筆を基礎に、散らし書きの要素を巧みに取り入れた大字仮名作品。文字の粗密、墨色の変化、強く多様な線質が相まって、立体感のある美しい景色を創り出している。上部の余白も際立って印象的である。

討伐 **筈井 淳**

授賞理由

強靱な線が奔放に躍動するこの作品は、艶でありながら矩をこえない古典の風趣を蔵する。独自の構成美を帯びながら、生き生きと響き合う行間の白が見事である。明代徐渭の作とされる「青天歌卷」を彷彿とさせる秀作。

驪歌愁絶 **古溝幽畦**

授賞理由

甲骨文を素材とし、古代文字のおもしろさを強調した優作である。繁画の字が多いが、余白を適度に設けて、呼応させ、明るくまとめたところが非凡である。また、輪郭を強く残して重厚感を加え効果をあげている。